

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：17104

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500705

研究課題名(和文)他者との関係性を基軸としたスポーツ動機づけモデルの構築

研究課題名(英文)Study of sport motivation model based on the relationship with others

研究代表者

磯貝 浩久(Isogai, Hiohisa)

九州工業大学・情報工学研究院・准教授

研究者番号：70223055

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、「他者との関係性に関する動機」を明らかにして、それが「スポーツ行動への動機」と「スポーツ行動」に及ぼす影響を検討し、スポーツ動機づけモデルを構築することである。他者志向的動機や互惠性を考慮したソーシャルサポートによって、他者との関係性の動機を評価することの有効性が示された。そして、これらの動機が目標志向性などのスポーツ行動の動機に影響し、その結果スポーツ行動が様々な異なってくるというモデルが示された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the "motivation for relationships with others." And to examine the influence of the "motivation for sport behavior" and "sport behavior", to build a sport motivation model. By others oriented motivation and social support has shown effectiveness in assessing the motivation relationships with others. These motivational affects the motivation of sports behavior, such as goal orientation, and models that sport behavior differs has been shown.

研究分野：体育心理学

キーワード：動機づけ スポーツ行動 他者との関係性 コミットメント 他者志向的動機 ソーシャルサポート

1. 研究開始当初の背景

スポーツの動機づけは文化によって相違するため、文化的差異を考慮する必要性が指摘されている (Duda and Allison, 1990)。わが国でも、欧米で発展した動機づけ理論を援用するだけでなく、日本人に合った動機づけモデルを構築する重要性が主張されている (西田他, 2009)。特に日本では、他者との協調を重視する相互協調的自己観が重要な役割を果たすことが指摘されている (磯貝, 2008)。すなわち、日本人競技者は、他者の期待や社会的な役割から目標とすべき自己を見だし、その達成に向け動機づけられるとみなされる。スポーツの動機づけに関する異文化間の実証的研究では、日本人は米国人よりライバルの存在など他者との比較を重視する傾向にあることが達成目標研究で示され (Isogai et al., 2003)、原因帰属の研究では、日本人は成功をコーチなど他者のおかげとみなし、失敗を自分の努力不足等に求める自己批判的傾向が示されている。これらの背景には、他者との感情的関係を重視することがあると指摘されている (磯貝, 2002)。本研究の代表者は、平成 21-23 年度度に行われた基盤研究(C)「スポーツ行動の動機づけと自己観に関する国際比較」において、日本と欧米では文化的自己観が異なり、日本では他者との協調を重視する自己観がスポーツの動機づけに影響することを見いだしている。以上、動機づけ研究を概観すると、文化により動機づけが異なること、その違いに「他者との関係性」が大きく影響しているとみなすことができる。

2. 研究の目的

「他者との関係性に関する動機 (他者志向的動機、社会的目標等)」を明らかにして、それが「スポーツ行動への動機 (スポーツ効力感等)」と「スポーツ行動 (競技への取り組み等)」に及ぼす影響を検討し、スポーツ動機づけモデルを構築する。

3. 研究の方法

(1) 文献研究及び理論的枠組みの検討：スポーツ行動の動機づけに関連する研究を網羅し、これまでに明らかにされてきた知見を整理する。また、本研究の分析モデルに基づいて、「他者との関係性」を基軸としたスポーツ動機づけに関する作業モデルを作成する。

(2) 他者との関係性に関する動機の評価方法の開発：予備調査とインタビューを行い、他者志向的動機及び社会的目標に関する概念の検証と評価尺度の開発を行う。

(3) 横断的研究：「他者との関係性に関する動機」、「スポーツ行動への動機」、「スポーツ行動」の関連について検討する。

(4) 縦断的研究：重要な他者などの要因を評価しながら、他者志向的動機及び社会的目標の変化に伴う「スポーツ行動への動機づけ」と「スポーツ行動」の変化を検討する。

(5) 国際比較研究：本研究の枠組みに基づいた動機づけモデルに関して、欧米諸国との国際比較研究を行う。

(6) 動機づけモデルの構築：以上の研究を総括して、「他者との関係性」を基軸としたスポーツ動機づけモデルを構築する。

4. 研究成果

(1) 文献研究及び理論的枠組みの検討：他者との関係性、他者志向的動機、社会目標、達成目標理論、スポーツへの動機づけ、自己決定、自己効力感、内発的動機づけ、スポーツ行動、国際比較などをキーワードとして、スポーツ動機づけに関連する研究をレビューし、これまで明らかにされてきた知見を整理した。また、文献調査と本研究の分析モデ

ルに基づいて、他者との関係性を基軸としたスポーツ動機づけモデルの試案を作成して、モデル構築に必要な理論、変数、方法論などについて検討した。他者との動機づけに関しては、他者志向的動機やソーシャルサポートを、スポーツ行動の動機は目標志向性、自己決定理論、自己効力感を、スポーツ行動に関しては競技への取り組み、コミットメント、集団適応などを取り上げることとした。

(2) 評価方法の開発：他者志向的動機の内容を整理し再定義して、予備調査を行い尺度を選定した。その尺度について、大学生 353 名を対象に信頼性と妥当性を検証し、尺度を作成した。また、ソーシャルサポートに関しても、従来の研究を整理して、他者との互惠性という新たな観点を導入した「ソーシャルサポート提供・受領尺度」を作成した。スポーツへのコミットメントに関しても、日本で利用されている従来の尺度では問題がみられたため、よりスポーツ状況を加味したスポーツコミットメント尺度の日本語版を作成した。

(3) 横断的研究：大学生 1000 名程度を対象として、前年の理論的枠組みに基づいたモデルを基に調査を実施した。調査内容としては、他者志向的動機、ソーシャルサポート、スポーツ効力感、目標志向性、自己決定、競技への取り組み、コミットメント、競技パフォーマンス、チーム適応感等を取り上げた。その結果、ソーシャルサポートや他者志向的動機といった他者との関係性が、スポーツ行動の動機づけ（スポーツ効力感等）を高め、そしてスポーツ行動やスポーツのパフォーマンスに影響することが明らかとなった。

(4) 縦断的研究：横断的研究の結果を基に縦断的な調査を実施して、「他者との関係性に関する動機」と「スポーツ行動への動機」

及び「スポーツ行動」の変化について調べ、そのダイナミズムを検討した。大学の2つのチームを対象とした縦断的な調査の結果、他者志向的動機とソーシャルサポートが変化することに伴って、スポーツへの動機づけとパフォーマンスが変動することが示された。

(5) 国際比較研究：他者との互惠性を考慮したソーシャルサポート 個人・社会志向性といったスポーツ動機づけ スポーツへのコミットメントを中心とした動機づけモデルに関して、日本、中国、米国の大学生競技者を対象とした国際比較を行い、各国の相違点を明らかにしながら、動機づけモデルの妥当性を示した。

(6) 動機づけモデルの構築：以上の研究を総括して、「他者との関係性に関する動機」「スポーツ行動への動機」「スポーツ行動」を説明するスポーツ動機づけモデルを構築して、共分散構造分析を用いて検討したところ、妥当なモデルであることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)
Hagiwara, G. and Isogai, H. Relationship between athletic identity and sport commitment linked to sport involvement. Journal of Sport Science and Physical Education. 67:91-99, 2014. 査読あり

萩原悟一、磯貝浩久「スポーツチームにおけるソーシャルサポート提供・受領尺度作成の試み」スポーツ産業研究、24(1):40-62, 2014. 査読あり

萩原悟一、磯貝浩久「ソーシャルサポートの授受と競技者アイデンティティの関連に着目したスポーツコミットメント形成モデルの検討」運動とスポーツの科学、20(1):

67-75,2014. 査読あり

〔学会発表〕(計 3 件)

Isogai,H. and Hagiwara,G. The relationship of cohesion and social support in collegiate athletes. The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress, 2014,8.10.Tokyo, Japan.

Hagiwara,G. and Isogai,H. Relationship between athletic identity and sport commitment linked to sport involvement. The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress, 2014,8.10.Tokyo, Japan.

郷直美、萩原悟一、磯貝浩久：「大学生のスポーツにおける自己・他者志向的動機尺度の作成」九州スポーツ心理学会、2013.3.10 福岡大学（福岡県）

〔図書〕(計 1 件)

磯貝浩久「動機づけの文化間比較」西田保著、スポーツモチベーション-スポーツ行動の秘密に迫る！ Pp168-180. 大修館書店, 2013.

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

磯貝 浩久 (Isogai Hirohisa)

九州工業大学・大学院情報工学研究院・

准教授

研究者番号：70223055